

原子力は、燃料となるウランが安定的に調達でき、少ない燃料で長期間発電が可能なこと、使用済燃料を再処理して再度燃料として使用できることから、安定供給性に優れた「準国産エネルギー」として、国内の電力需給を支えています。また、発電時にCO<sub>2</sub>を排出しないため、気候変動対策の観点からも優れた発電方法の一つです。

J-POWERは2008年より、大間原子力発電所の建設を開始しました。その後、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ策定された新規制基準への適合性確認のため、2014年12月、原子炉設置変更許可申請書および工事計画認可申請書を提出し、現在は原子力規制委員会による適合性審査を受けています。

審査への早期合格を目指すとともに、一層の安全性の向上を不断に追求し、大間原子力計画を着実に推進していきます。

## 大間原子力発電所建設計画概要

建設地点	青森県下北郡大間町
電気出力	138.3万kW
用地面積	約130万m <sup>2</sup>
炉型	改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)
着工	2008年5月
運転開始	未定
燃料	濃縮ウランおよびウラン・プルトニウム混合酸化物 (MOX※1)

※1 MOX: Mixed Oxide

